

科目名	運動学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		

概要	作業療法の基礎をなす運動学のうち、上肢、体幹、下肢、顔面の機能的構造と運動及び関節の動きと筋の作用の関係を解剖学的構造の基本事項について学習する。併せて、将来の作業療法士にふさわしい態度を身に付ける。
----	--

一般目標 (GIO)	人間は様々な活動(運動)を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動(運動)を細分化し、その基本的なメカニズムを学ぶ。(C-2) ・関節運動のメカニズムについて理解する。(C-2-1)
------------	--

教科書	PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版 羊土社
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション、運動学総論	C-2-1)①	谷口
2	骨・関節・筋の機能と構造①		谷口
3	骨・関節・筋の機能と構造②		谷口
4	機能解剖学:上肢・肩複合体①	C-2-1)②	谷口
5	機能解剖学:上肢・肩複合体②		谷口
6	機能解剖学:上肢・肘・前腕		谷口
7	機能解剖学:上肢・手・手指①		谷口
8	機能解剖学:上肢・手・手指②		谷口
9	機能解剖学:下肢・股関節①		谷口
10	機能解剖学:下肢・股関節②		谷口
11	機能解剖学:下肢・膝関節		谷口
12	機能解剖学:下肢・足・足部①		谷口
13	機能解剖学:下肢・足・足部②		谷口
14	機能解剖学:体幹・頭部		谷口
15	機能解剖学:体幹・脊柱・胸郭		谷口

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	基礎作業療法学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経験	科目内容について、作業療法臨床に従事した経験を十分に有する。
担当教員	高橋 真紀		

概要	作業に関する基礎知識について、理解を図るとともに各作業活動について講義する。症例を通してICFに触れ、グループワークにより理解を深める。 見学実習を想定し、対象者に対する言葉遣いや態度を考える機会をもつ。
----	---

一般目標 (GIO)	作業を治療に用いる際に必要となる基本的な知識と技術を習得する。(E-1) 職業人としての常識的態度を身につける。(G-1) 専門職としての責任ある行動を身につける。(G-1)
------------	---

教科書	「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト第3版 作業学」 メジカルビュー社 「ひとと作業・作業活動」 新版 三輪書店
-----	---

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション 作業学総論①	E-1-2)①	高橋
2	作業学総論② 作業・作業活動の分類	E-1-2)①	高橋
3	「ひととくらしの視点による分類」 ① 作業を治療に用いる	E-1-2)②	高橋
4	「ひととくらしの視点による分類」 ② 作業を治療に用いる	E-1-2)②	高橋
5	G.W①～ICFの構成要素をふまえて 考える・調べる	E-1-2)③	高橋
6	G.W②～ICFの構成要素をふまえて 考える・調べる	E-1-2)③	高橋
7	G.W③～ICFの構成要素をふまえて まとめる	E-1-2)④	高橋
8	G.W④～ICFの構成要素をふまえて まとめる	E-1-2)④	高橋
9	G.W⑤～発表会 「人の話を聴く」	E-1-2)③④	高橋
10	G.W⑥～発表会 「人の話を聴く」	E-1-2)③④	高橋
11	実習 「思いやりのある誘導」	G-1-1)④	高橋
12	「思いやりのある誘導」を終えて	G-1-2)④⑤	高橋
13	作業分析① 一般的分析・限定的分析	E-1-2)⑤	高橋
14	作業分析② 一般的分析・限定的分析	E-1-2)⑤	高橋
15	まとめ		高橋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	70	
	平常点	30	

科目名	作業療法管理学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの 実務経験がある。
担当教員	谷口 賢一 谷 紅		
概要	作業療法士の現場において、実際の業務遂行に欠かせないマネジメント、教育、リスク管理、法律制度の基礎を学習する。		
一般目標 (GIO)	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。[作業療法部門管理 (E-2-1)、作業療法教育 (E-2-2)]		

教科書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 リハビリテーション管理学 医学書院
参考書・教材	適宜資料配布
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション、作業療法とマネジメント	E-2-1)①～⑧	谷
2	作業療法士の倫理	E-2-1)⑦⑧	谷
3	組織の成り立ちとマネジメント (人事・労務・危機管理)	E-2-1)⑦⑧	谷
4	情報マネジメント (個人情報保護、SOAP)	E-2-1)②	谷
5	医療安全マネジメント (リスク管理)	E-2-1)⑤⑥	谷
6	作業療法業務マネジメント (多職種との連携)	E-2-1)③	谷
7	作業療法の卒前教育 (臨床実習、国家試験)	E-2-2)①～⑥	谷 口
8	作業療法の卒後教育 (生涯学習制度、キャリア開発)	E-2-2)①～⑥	谷 口
9	作業療法をとりまく諸制度：社会保障制度総論	E-2-1)①	谷 口
10	作業療法をとりまく諸制度：医療保険	E-2-1)①	谷 口
11	作業療法をとりまく諸制度：高齢者福祉 (介護保険)	E-2-1)①	谷 口
12	作業療法をとりまく諸制度：障害者福祉制度	E-2-1)①	谷 口
13	作業療法をとりまく諸制度：就労支援制度	E-2-1)①	谷 口
14	作業療法をとりまく諸制度：地域包括ケアシステム	E-2-1)①	谷 口
15	作業療法をとりまく諸制度：権利擁護	E-2-1)①	谷 口

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：レポート 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート	100	

科目名	人体機能演習 I	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	高橋 真紀 谷 紅		
概要	作業療法士に必要な解剖学・生理学・運動学に関する基本的な知識についての理解を深める。授業では、視聴覚教材や標本等を用いて演習を行う。		
一般目標 (GIO)	筋・骨格系 (運動器) の構造と機能について説明できる (C-1-3①)		

教科書	標準理学療法学作業療法学専門基礎分野 解剖学 標準理学療法学作業療法学専門基礎分野 生理学
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	骨学演習：上肢の骨①	C-1-3) ①	高橋・谷
2	骨学演習：上肢の骨②	C-1-3) ①	高橋・谷
3	骨学演習：下肢の骨①	C-1-3) ①	高橋・谷
4	骨学演習：下肢の骨②	C-1-3) ①	高橋・谷
5	骨学演習：体幹の骨	C-1-3) ①	高橋・谷
6	筋学演習：上肢の筋①	C-1-3) ①	高橋・谷
7	筋学演習：上肢の筋②	C-1-3) ①	高橋・谷
8	筋学演習：上肢の筋③	C-1-3) ①	高橋・谷
9	筋学演習：上肢の筋④	C-1-3) ①	高橋・谷
10	筋学演習：上肢の筋⑤	C-1-3) ①	高橋・谷
11	筋学演習：下肢の筋①	C-1-3) ①	高橋・谷
12	筋学演習：下肢の筋②	C-1-3) ①	高橋・谷
13	筋学演習：下肢の筋③	C-1-3) ①	高橋・谷
14	筋学演習：下肢の筋④	C-1-3) ①	高橋・谷
15	筋学演習：下肢の筋⑤	C-1-3) ①	高橋・谷

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100%	

科目名	人体機能演習Ⅱ	単位数	1	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーション での実務経験がある。
担当教員	高橋 真紀 谷 紅		
概要	作業療法士に必要な解剖学・生理学・運動学に関する基本的な知識についての理解を深める。授業では、視聴覚教材や標本等を用いて演習を行う。		
一般目標 (GIO)	神経系の構造と機能について説明できる (C-1-3②)		

教科書	標準理学療法学作業療法学専門基礎分野 解剖学 標準理学療法学作業療法学専門基礎分野 生理学
参考書・教材	病気がみえる vol. 7 脳・神経、骨標本
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	神経学演習：中枢神経系の構造と機能①	C-1-3) ②	高橋
2	神経学演習：中枢神経系の構造と機能②	C-1-3) ②	高橋
3	神経学演習：脳神経の構造と機能①	C-1-3) ②	谷
4	神経学演習：脳神経の構造と機能②	C-1-3) ②	谷
5	神経学演習：脳神経の構造と機能③	C-1-3) ②	谷
6	神経学演習：自律神経系	C-1-3) ②	高橋
7	神経学演習：脊髄神経の構造と機能①	C-1-3) ②	谷
8	神経学演習：脊髄神経の構造と機能②	C-1-3) ②	谷
9	神経学演習：運動に関する神経系と伝導路①	C-1-3) ②	谷
10	神経学演習：運動に関する神経系と伝導路②	C-1-3) ②	谷
11	神経学演習：神経系と伝導路	C-1-3) ②	高橋
12	神経学演習：感覚に関する神経系と伝導路①	C-1-3) ②	谷
13	神経学演習：感覚に関する神経系と伝導路②	C-1-3) ②	谷
14	まとめ①	C-1-3) ②	高橋
15	まとめ②	C-1-3) ②	谷

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	運動学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口 賢一、白田 典正 福岡 幹彦、高橋 真紀		

概要	作業療法の基礎をなす運動学のうち、上肢、体幹、下肢、顔面の機能的構造と運動及び関節の動きと筋の作用の関係を解剖学的構造の基本事項について学習する。併せて、将来の作業療法士にふさわしい態度を身に付ける。
----	--

一般目標 (GIO)	人間は様々な活動（運動）を営むことができる生物ということを理解できるようになるため、人間の活動（運動）を細分化し、その基本的なメカニズムを学ぶ。(C-2) ・関節運動のメカニズムについて理解する。(C-2-1) ・基本動作のメカニズムについて理解する。(C-2-2) ・運動を実行するメカニズムについて理解する。(C-2-3) ・運動を継続するメカニズムについて理解する。(C-2-4)
------------	---

教科書	PT・OTのための運動学テキスト 金原出版 運動療法のための解剖学的触診技術（第2版） 上肢/下肢・体幹 メジカルビュー社
-----	--

参考書・教材	適宜資料を配布する
--------	-----------

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	運動のためのエネルギー供給	C-2-1)③	谷 口
3・4	姿勢・運動制御、運動学習	C-2-3)①～④	谷 口
5・6	バイオメカニクス	C-2-4)①～④	谷 口
7・8	演習：上肢の触診①	C-2-1)②	谷 口
9・10	演習：上肢の触診②	C-2-1)②	谷 口
11・12	演習：下肢の触診①	C-2-1)②	高 橋
13・14	演習：下肢の触診②	C-2-1)②	高 橋
15・16	演習：体幹の触診	C-2-1)③	谷 口
17・18	演習：形態計測	C-2-1)②③	谷 口
19・20	演習：筋力	C-2-3)①～④	福 岡
21・22	演習：筋電図	C-2-3)①～④	福 岡
23・24	基本動作①姿勢・重心	C-2-2)①～③	白 田
25・26	基本動作②歩行	C-2-2)①～③	白 田
27・28	基本動作③起き上がり・立ち上がり	C-2-2)①～③	白 田
29・30	基本動作④車椅子駆動	C-2-2)①～③	白 田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	



科目名	作業療法概論	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	科目内容について、作業療法臨床に従事した経験を十分に有する。
担当教員	高橋 真紀		

概要	作業療法、作業について何かを学ぶ。作業療法の起源から始まり、リハビリテーションにおける位置づけまでの基礎知識、及び作業療法の流れから研究までの基礎技法を学ぶ。更に作業療法部門の管理、運営、職域及び法的体系などについて学習する。
----	---

一般目標 (GIO)	作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ。(E-1)
------------	-----------------------------------

教科書	標準作業療法学 作業療法概論 第4版 医学書院
-----	-------------------------

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション、作業療法、作業療法士に興味をもつ①	E-1-1)①①③	高橋
2	作業療法、作業療法士に興味をもつ②～作業療法士の仕事ぶり	E-1-1)②	高橋
3	作業療法、作業療法士に興味をもつ③～作業療法の適応範囲と働く場所	E-1-1)③	高橋
4	作業療法士に求められる資質と適性①	A-1-3)①②	高橋
5	作業療法士に求められる資質と適性②	A-6-1)①②	高橋
6	作業療法の実施①～チームアプローチ①	A-4-1)①②	高橋
7	作業療法の実施②～チームアプローチ②	A-4-1)③④	高橋
8	作業療法の過程①	E-1-1)⑩	高橋
9	作業療法の過程②	E-1-1)⑩	高橋
10	作業療法の過程③	E-1-1)⑩	高橋
11	作業療法の臨床現場を理解する①	A-1-1)④	高橋
12	作業療法の臨床現場を理解する②	A-2-1)	高橋
13	作業療法の臨床現場を理解する③	A-2-2)	高橋
14	作業療法の臨床現場を理解する④	A-4-1)	高橋
15	作業療法概論 I のまとめ		高橋

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	70	
	平常点	30	

科目名	基礎作業療法評価学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実務 経験	身体障害、高齢期、精神障害の臨床経験により、領域共通の評価の基礎について学んだ。
担当教員	白田 典正 佐藤 正輝		
概要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の情報収集、各種検査測定等の評価方法について学習する。		
一般目標 (GIO)	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)		

教科書	「作業療法評価学 第3版」 医学書院 講師作成資料 (配布プリント含む)
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	評価学基礎:評価の意義・目的	F-1-1)①	白田 他
2	評価学基礎:対象と過程、手順	E-1-1)③⑩	白田 他
3	評価学基礎:治療計画、記録・報告、効果判定	E-1-1)⑫	白田 他
4	領域共通の評価法:面接・観察、形態計測、意識・バイタルサイン	F-1-1)②③④⑤	白田 他
5	領域共通の評価法:ROM-T ①	F-1-1)⑥	白田 他
6	領域共通の評価法:ROM-T ②	F-1-1)⑥	白田 他
7	領域共通の評価法:ROM-T ③	F-1-1)⑥	白田 他
8	領域共通の評価法:ROM-T ④	F-1-1)⑥	白田 他
9	領域共通の評価法:ROM-T ⑤	F-1-1)⑥	白田 他
10	領域共通の評価法:MMT ①	F-1-1)⑦	白田 他
11	領域共通の評価法:MMT ②	F-1-1)⑦	白田 他
12	領域共通の評価法:MMT ③	F-1-1)⑦	白田 他
13	領域共通の評価法:MMT ④	F-1-1)⑦	白田 他
14	領域共通の評価法:MMT ⑤	F-1-1)⑦	白田 他
15	知覚検査、まとめと試験範囲の説明	F-1-1)⑨	白田 他

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	基礎作業療法評価学	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実務 経験	身体障害、高齢期、精神障害の臨床経験により、領域共通の評価の基礎について学んだ。
担当教員	白田 典正 佐藤 正輝		
概要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の情報収集、各種検査測定等の評価方法について学習する。		
一般目標 (GIO)	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)		

教科書	「作業療法評価学 第3版」 医学書院 講師作成資料 (配布プリント含む)
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	09/19 評価学基礎:評価の意義・目的	F-1-1)①	白田 他
2	09/26 評価学基礎:対象と過程、手順	E-1-1)③⑩	白田 他
3	10/03 評価学基礎:治療計画、記録・報告、効果判定	E-1-1)⑫	白田 他
4	10/10 領域共通の評価法:面接・観察、形態計測、意識・バイタルサイン	F-1-1)②③④⑤	白田 他
5	10/17 領域共通の評価法:ROM-T ①	F-1-1)⑥	白田 他
6	10/24 領域共通の評価法:ROM-T ②	F-1-1)⑥	白田 他
7	10/31 領域共通の評価法:ROM-T ③	F-1-1)⑥	白田 他
8	11/07 領域共通の評価法:ROM-T ④	F-1-1)⑥	白田 他
9	11/14 領域共通の評価法:ROM-T ⑤	F-1-1)⑥	白田 他
10	11/21 領域共通の評価法:MMT ①	F-1-1)⑦	白田 他
11	11/28 領域共通の評価法:MMT ②	F-1-1)⑦	白田 他
12	12/05 領域共通の評価法:MMT ③	F-1-1)⑦	白田 他
13	12/12 領域共通の評価法:MMT ④	F-1-1)⑦	白田 他
14	12/19 領域共通の評価法:MMT ⑤	F-1-1)⑦	白田 他
15	12/26 知覚検査、まとめと試験範囲の説明	F-1-1)⑨	白田 他

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	作業療法基礎技能演習	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実 務 経 歴	5年以上の臨床経験ある専任教員（作業療法士）が担当する。
担当教員	白田典正 谷口賢一 福岡幹彦 高橋真紀 谷 紅		
概要	作業療法士という職種の理解と基本的かつ障害を問わず行う技法について、演習を通し理解を深め、興味を高く持ち、後期以降の作業療法専門科目の理解力向上につなげることを目標とする。		
一般目標（GIO）	作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ。（E-1） 対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。（F-1）		

教科書	講師配布資料
参考書・教材	姿勢と動作 メヂカルフレンド社、作業療法評価学第3版 医学書院、 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂
履修上の注意点	演習時はTシャツ・短パンまたはケーシーなどの軽装で行う。

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	作業療法士という職種・仕事について	E-1-1)①③④ ⑪	白田
2	作業療法についての疑問、国家資格取得の必要性・取得のために	E-1-1)①③④ ⑪	白田
3	観察、コミュニケーション技法	F-1-1) ⑥	谷
4	観察、コミュニケーション技法	F-1-1) ⑥	谷
5	バイタルサインとは？バイタルサイン演習①	F-1-1) ②③	谷他
6	バイタルサインとは？バイタルサイン演習②	F-1-1) ②③	谷他
7	高齢者について・高齢者体験演習①	F-2-7)②	高橋他
8	高齢者について・高齢者体験演習②	F-2-7)②	高橋他
9	車椅子の基礎・車椅子操作演習①	F-3-3)⑥	白田他
10	車椅子の基礎・車椅子操作演習②	F-3-3)⑥	白田他
11	ADLの基本動作（姿勢・肢位）について・基本動作演習①	F-2-8)③	谷口他
12	ADLの基本動作（姿勢・肢位）について・基本動作演習②	F-2-8)③	谷口他
13	反射とは？反射検査演習①	F-1-1)⑧	福岡他
14	反射とは？反射検査演習①	F-1-1)⑧	福岡他
15	演習の振り返り	E及びF	谷他

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上の者の修得状況の評価する。 評価方法：出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	0%	
	授業態度	100%	

科目名	作業療法基礎技能演習	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	1	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実 務 経 歴	5年以上の臨床経験ある専任教員（作業療法士）が担当する。
担当教員	白田典正 谷口賢一 福岡幹彦 高橋真紀 谷 紅		
概要	作業療法士という職種の理解と基本的かつ障害を問わず行う技法について、演習を通し理解を深め、興味を高く持ち、後期以降の作業療法専門科目の理解力向上につなげることを目標とする。		
一般目標（GIO）	作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ。（E-1） 対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。（F-1）		

教科書	講師配布資料
参考書・教材	姿勢と動作 メヂカルフレンド社、作業療法評価学第3版 医学書院、 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂
履修上の注意点	演習時はTシャツ・短パンまたはケーシーなどの軽装で行う。

実施回	授業内容	SBO (対応CC)	担当教員
1	04/14 作業療法士という職種・仕事について	E-1-1)①③④ ⑪	白田
2	04/21 作業療法についての疑問、国家資格取得の必要性・取得のために	E-1-1)①③④ ⑪	白田
3	04/28 観察、コミュニケーション技法	F-1-1) ⑥	谷
4	05/12 観察、コミュニケーション技法	F-1-1) ⑥	谷
5	05/19 バイタルサインとは？バイタルサイン演習①	F-1-1) ②③	谷他
6	05/26 バイタルサインとは？バイタルサイン演習②	F-1-1) ②③	谷他
7	06/02 高齢者について・高齢者体験演習①	F-2-7)②	高橋他
8	06/09 高齢者について・高齢者体験演習②	F-2-7)②	高橋他
9	06/16 車椅子の基礎・車椅子操作演習①	F-3-3)⑥	白田他
10	06/23 車椅子の基礎・車椅子操作演習②	F-3-3)⑥	白田他
11	06/30 ADLの基本動作（姿勢・肢位）について・基本動作演習①	F-2-8)③	谷口他
12	07/07 ADLの基本動作（姿勢・肢位）について・基本動作演習②	F-2-8)③	谷口他
13	07/14 反射とは？反射検査演習①	F-1-1)⑧	福岡他
14	07/21 反射とは？反射検査演習①	F-1-1)⑧	福岡他
15	07/28 演習の振り返り	E及びF	谷他

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上の者の修得状況の評価する。 評価方法：出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	0%	
	授業態度	100%	

※7月14日、7月21日→6月5日の3, 4時限目へ

科目名	見学実習	単位数	1	1	学年	後期
		時間数	45	作業昼夜共通		必修
科目担当責任者	1年生担任					
担当教員	OT各科全教員					
概要	病院・施設等において見学を行い、臨床場面における作業療法業務の実践について学ぶ。					
一般目標 (GIO)	①臨床現場において作業療法士の果たす役割を学ぶ。(G-4-5) ②施設の機能と、作業療法部門の果たす役割を学ぶ。(G-4-5) ③医療専門職のあり方、心構えについて学ぶ。(G-1-1)～4)					
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。</li> <li>・努めて全日出席する事。</li> <li>・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。</li> <li>・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。</li> </ul>					
実習における学習の概要						
実習の期間	当年度1年次の3月上旬における1週間(5日間、計45時間)					
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設					
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 (施設外での自主的な学習時間はこれに含めない)					
実習の内容	臨床実習施設において、実習指導者の指導監督のもと、 ①臨床場面の見学・観察 ②指定課題(日報等)の作成 を行うものとする。				SB0(対応CC) G-1-1)～4) (全実習共通) G-4-5) ①②	
特記事項	新カリキュラム規定に沿い見学実習では特に確立した「実習前評価」の形式での学生状況評価は行わないが、態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者については履修を認めない場合がある。					
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法			
	実習指導者評価	参考	評価基準：授業への出席率4/5以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを			
	学校評価	100	学校評価に加味して総合的に評価する。			

科目名	疾患別作業療法評価学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の基礎知識を学習する。授業は実際の評価用紙の使用やデモンストレーション、画像読影などを交えた形態とする。また、評価に必要な画像読影の基礎知識も習得する		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①)</li> <li>・神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む作業療法評価について説明できる (F-1-3 ①)</li> <li>・内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む作業療法評価について説明できる (F-1-4 ①)</li> </ul>		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> <li>・「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	画像読影の基礎	F1-2,3,4 ①	福岡
2	画像読影①	F1-2,3,4 ①	福岡
3	画像読影②	F1-2,3,4 ①	福岡
4	呼吸器疾患①	F1-4 ①	白田
5	呼吸器疾患②	F1-4 ①	白田
6	循環器疾患①	F1-4 ①	白田
7	循環器疾患②	F1-4 ①	白田
8	脳血管障害①	F1-3 ①	谷口
9	脳血管障害②	F1-3 ①	谷口
10	外傷性脳損傷①	F1-3 ①	谷口
11	外傷性脳損傷②	F1-3 ①	谷口
12	関節リウマチ	F1-3 ①	谷
13	骨関節疾患	F1-3 ①	谷
14	神経変性疾患①	F1-3 ①	福岡
15	神経変性疾患②	F1-3 ①	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	疾患別作業療法評価学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の基礎知識を学習する。授業は実際の評価用紙の使用やデモンストレーション、画像読影などを交えた形態とする。また、評価に必要な画像読影の基礎知識も習得する		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①)</li> <li>・神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む作業療法評価について説明できる (F-1-3 ①)</li> <li>・内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む作業療法評価について説明できる (F-1-4 ①)</li> </ul>		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> <li>・「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容		SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/04	画像読影の基礎	F1-2,3,4 ①	福岡
2	04/12	画像読影①	F1-2,3,4 ①	福岡
3	04/19	画像読影②	F1-2,3,4 ①	福岡
4	04/26	呼吸器疾患①	F1-4 ①	白田
5	05/02	呼吸器疾患②	F1-4 ①	白田
6	05/10	循環器疾患①	F1-4 ①	白田
7	05/17	循環器疾患②	F1-4 ①	白田
8	05/24	脳血管障害①	F1-3 ①	谷口
9	05/30	脳血管障害②	F1-3 ①	谷口
10	06/06	外傷性脳損傷①	F1-3 ①	谷口
11	06/14	外傷性脳損傷②	F1-3 ①	谷口
12	06/21	関節リウマチ	F1-3 ①	谷
13	06/27	骨関節疾患	F1-3 ①	谷
14	07/04	神経変性疾患①	F1-3 ①	福岡
15	07/11	神経変性疾患②	F1-3 ①	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	日常生活活動学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、日常生活活動の評価・支援に従事した。
担当教員	高橋 真紀 白田 典正		
概要	・日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）に対する作業療法の概念、評価、作業別支援について理解・説明できるように座学を中心に学習を行う。		
一般目標（GIO）	・日常生活活動・IADLの概念について説明できる（F2-8①） ・日常生活活動・IADLの評価について説明できる（F2-8②） ・日常生活活動・IADLにおける作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）		

教科書	・「PT・OTビジュアルテキスト ADL」羊土社
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	日常生活活動の概念	F2-8①	福岡
2	日常生活活動の評価	F2-8②	福岡
3	起居	F2-8③	白田
4	移乗	F2-8③	白田
5	移動	F2-8③	白田
6	交通機関の利用、自動車運転	F2-8③	白田
7	食事	F2-8③	白田
8	整容・更衣	F2-8③	福岡
9	排泄・入浴	F2-8③	福岡
10	基礎的な移乗とその介助法	F2-8③	福岡・他
11	基礎的な移乗とその介助法	F2-8③	福岡・他
12	炊事	F2-8③	高橋
13	掃除	F2-8③	高橋
14	買い物・経済管理、睡眠・栄養・運動	F2-8③	高橋
15	趣味活動・社会参加	F2-8③	高橋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。
			評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	日常生活活動学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、日常生活活動の評価・支援に従事した。
担当教員	高橋 真紀 白田 典正		
概要	・日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）に対する作業療法の概念、評価、作業別支援について理解・説明できるように座学を中心に学習を行う。		
一般目標（GIO）	・日常生活活動・IADLの概念について説明できる（F2-8①） ・日常生活活動・IADLの評価について説明できる（F2-8②） ・日常生活活動・IADLにおける作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）		

教科書	・「PT・OTビジュアルテキスト ADL」羊土社
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/02 日常生活活動の概念	F2-8①	福岡
2	04/09 日常生活活動の評価	F2-8②	福岡
3	04/16 起居	F2-8③	白田
4	04/23 移乗	F2-8③	白田
5	04/30 移動	F2-8③	白田
6	05/07 交通機関の利用、自動車運転	F2-8③	白田
7	05/14 食事	F2-8③	白田
8	05/21 整容・更衣	F2-8③	福岡
9	05/28 排泄・入浴	F2-8③	福岡
10	06/04 基礎的な移乗とその介助法	F2-8③	福岡・他
11	06/11 基礎的な移乗とその介助法	F2-8③	福岡・他
12	06/18 炊事	F2-8③	高橋
13	06/25 掃除	F2-8③	高橋
14	07/02 買い物・経済管理、睡眠・栄養・運動	F2-8③	高橋
15	07/09 趣味活動・社会参加	F2-8③	高橋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	義肢装具学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷 紅	実務 経歴	整形外科勤務の臨床経験から、装具を中心とした知識を有する。
担当教員	谷 紅 佐藤 正輝		
概要	切断および義肢についての基礎知識を学習し、各種義手の基本操作、構造を理解する。また、現在、作業療法における装具学の必要性は極めて重要である。基礎知識を学習した上で、治療・訓練・保存用に使用する各種装具の機能・構造・組み立ての技術・チェックポイントを学習する。		
一般目標 (GIO)	義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する。(F-2-9)		

教科書	「義肢装具と作業療法」 医歯薬出版 教員配布資料		
参考書・教材	「OT 全書 義肢装具学」 協同医書出版 「義肢装具学」 医学書院 「義肢装具のチェックポイント第8版」 医学書院		
履修上の注意点	実物の確認、操作などを通して理解度を高めていきます。		

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	義肢・装具とは	F-2-9)①⑤⑥⑦	谷・佐藤
2	切断とは	F-2-9)②⑥	谷・佐藤
3	義手の分類・部品	F-2-9)③⑤	谷・佐藤
4	義手の訓練・チェックアウト	F-2-9)④	谷・佐藤
5	義手装着の評価・訓練、国家試験問題取り組み	F-2-9)①④	谷・佐藤
6	筋電義手について	F-2-9)⑤	谷・佐藤
7	装具の分類、作業療法士の役割と機能	F-2-9)①⑦	谷・佐藤
8	上肢装具・スプリントについて	F-2-9)⑧	谷・佐藤
9	上肢装具・スプリントのチェックアウト	F-2-9)⑧	谷・佐藤
10	上肢装具・スプリントと治療・訓練	F-2-9)⑧	谷・佐藤
11	義肢・装具の適応疾患 (末梢神経損傷、頸髄損傷)	F-2-9)⑩⑪	谷・佐藤
12	義肢・装具の適応疾患 (慢性関節リウマチ)	F-2-9)⑨⑩⑪	谷・佐藤
13	義肢・装具の適応疾患 (脳血管障害、その他)	F-2-9)⑨⑩⑪	谷・佐藤
14	上肢装具に関する国家試験問題取り組み	F-2-9)⑦～⑩	谷・佐藤
15	自助具、前期分の復習	F-3-3)⑦	谷・佐藤

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験		



科目名	身体機能作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	治療原理について実技を通して学習する。また身体障害、内部障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法についてVTRやデモンストレーションを通じた座学を中心に学習を行う。		
一般目標 (GIO)	・治療原理について説明できる (F2-1③)		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 I 骨関節・神経疾患偏」 羊土社</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 I 内部疾患偏」 羊土社</li> <li>・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	治療原理① ROMの拡大	F2-1 ③	白田
2	治療原理② 感覚・知覚の再教育	F2-1 ③	福岡
3	治療原理③ 筋力の維持・増強	F2-1 ③	福岡
4	呼吸器疾患①	F2-2 ③	白田
5	呼吸器疾患②	F2-2 ③	白田
6	循環器疾患①	F2-2 ③	白田
7	循環器疾患②	F2-2 ③	白田
8	脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
9	脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
10	外傷性脳損傷①	F2-1 ④	谷口
11	外傷性脳損傷②	F2-1 ④	谷口
12	関節リウマチ	F2-1 ④	谷
13	骨関節疾患	F2-1 ④	谷
14	神経変性疾患①	F2-1 ④	福岡
15	神経変性疾患②	F2-1 ④	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	身体機能作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	治療原理について実技を通して学習する。また身体障害、内部障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法についてVTRやデモンストレーションを通じた座学を中心に学習を行う。		
一般目標 (GIO)	・治療原理について説明できる (F2-1③)		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 I 骨関節・神経疾患偏」 羊土社</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 I 内部疾患偏」 羊土社</li> <li>「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容		SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/02	治療原理① ROMの拡大	F2-1 ③	白田
2	04/09	治療原理② 感覚・知覚の再教育	F2-1 ③	福岡
3	04/16	治療原理③ 筋力の維持・増強	F2-1 ③	福岡
4	04/23	呼吸器疾患①	F2-2 ③	白田
5	04/30	呼吸器疾患②	F2-2 ③	白田
6	05/07	循環器疾患①	F2-2 ③	白田
7	05/14	循環器疾患②	F2-2 ③	白田
8	05/21	脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
9	05/28	脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
10	06/04	外傷性脳損傷①	F2-1 ④	谷口
11	06/11	外傷性脳損傷②	F2-1 ④	谷口
12	06/18	関節リウマチ	F2-1 ④	谷
13	06/25	骨関節疾患	F2-1 ④	谷
14	07/02	神経変性疾患①	F2-1 ④	福岡
15	07/09	神経変性疾患②	F2-1 ④	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目区分: 作業治療学

科目名	精神障害作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口 賢一		

概要	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価、作業療法について学ぶ。
一般目標(GIO)	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について理解する。(F-1-5) 精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-5)

教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法第3版 中央法規 精神障害と作業療法【新版】 三輪書店
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション 精神障害作業療法概論:精神保健医療福祉の歴史と現状	F-2-5)	谷口
2	自己理解	F-2-5)	谷口
3	精神障害作業療法の基礎理論:精神障害の治療	F-2-5)	谷口
4	精神障害作業療法の基礎理論:精神分析	F-2-5)	谷口
5	精神障害作業療法の基礎理論:学習理論・認知理論	F-2-5)	谷口
6	精神障害作業療法の構造①	F-2-5)	谷口
7	精神障害作業療法の構造②	F-2-5)	谷口
8	精神障害作業療法の評価:総論	F-1-5)	谷口
9	精神障害作業療法の評価:面接・観察①	F-1-5)	谷口
10	病院見学	F-2-5)	谷口
11	精神障害作業療法の評価:面接・観察②	F-1-5)	谷口
12	病院見学	F-2-5)	谷口
13	精神障害作業療法の評価:検査・測定	F-1-5)	谷口
14	精神障害作業療法の評価:作業分析	F-1-5)	谷口
15	精神障害作業療法の目標設定・プログラム立案	F-1-5)	谷口

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験		評価基準:授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。
	レポート		評価方法:定期試験・レポート 60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	発達障害作業療法治療学	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	15	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、小児疾患の作業療法に従事した。
担当教員			
概要	発達過程作業療法総論を通じて、発達過程作業療法における「理念、目的、資質、対象、評価や治療」を総合的に学習する。その後、発達障害を生じる代表的疾患について生活障害の特性、予後、評価と基本的な作業療法について、デモンストレーションや資料を用いて座学を中心に学習を行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患ごとの生活障害の特性について説明できる (F2-6 ①)</li> <li>・疾患ごとの予後について説明できる (F2-6 ②)</li> <li>・疾患ごとの評価と作業療法について説明できる (F2-6 ③)</li> </ul>		
教科書	・「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第3版」医学書院		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	発達過程作業療法の理念と目的	F2-6	福岡
2	発達過程作業療法に必要な知識	F2-6	福岡
3	発達過程作業療法の役割	F2-6	福岡
4	発達過程作業療法の脂質	F2-6	福岡
5	発達過程作業療法の実践の場・実践過程	F2-6	福岡
6	新生児 (NICU 対象児) への作業療法	F2-6 ①②③	福岡
7	二分脊椎①	F2-6 ①②③	福岡
8	二分脊椎②	F2-6 ①②③	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	老年期障害作業療法治療学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの 実務経験がある。
担当教員	高橋 真紀 谷口 賢一		
概要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。		
一般目標 (GIO)	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)		

教科書	標準作業療法学 (専門分野) 高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
参考書・教材	講師配布資料
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	老年期にある対象者の作業療法の理念と役割について	F-2-7)①	高 橋
2	高齢者・高齢社会について①	F-2-7)①	高 橋
3	高齢者・高齢社会について②	F-2-7)①	高 橋
4	高齢者・高齢社会について③	F-2-7)①	高 橋
5	老年期と作業療法について①	F-2-7)①	高 橋
6	老年期と作業療法について②	F-2-7)①	高 橋
7	老年期と作業療法について③	F-2-7)①	高 橋
8	作業療法の実際～老年期障害別作業療法 高齢期に多い疾患①	F-2-7)②	高 橋
9	作業療法の実際～老年期障害別作業療法 高齢期に多い疾患②	F-2-7)②	高 橋
10	高齢者の評価	F-2-7)①	谷 口
11	認知症の作業療法①	F-2-7)②	谷 口
12	認知症の作業療法②	F-2-7)②	谷 口
13	認知症の作業療法③	F-2-7)②	谷 口
14	認知症の作業療法④	F-2-7)②	谷 口
15	認知症の作業療法⑤	F-2-7)②	谷 口

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および平常評価 (レポート、出席状況や授業態度など) を総合的に評価する。
	定期試験	80	
	レポート	20	

科目名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷 紅		
概要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-2 ①②)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-3 ①②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-4 ①②)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	09/21 高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	09/28 高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	10/05 動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	10/12 動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	10/19 動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	10/26 動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	11/02 <u>手外科、末梢神経障害</u> ☆	F1-2 ①②	谷
15・16	11/09 <u>熱傷、切断</u> ☆	F1-2 ①②	谷
17・18	11/17* <u>脊髄損傷①</u> ☆	F1-2 ①②	白田
19・20	11/30 <u>脊髄損傷②</u> ☆	F1-2 ①②	白田
21・22	12/07 嚥下障害（喀痰、吸引含む）☆	F1-3 ①②	白田
23・24	12/14 糖尿病☆	F1-4 ①②	白田
25・26	12/18* 終末期作業療法☆	F1-4 ①②	福岡
27・28	12/21 神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
29・30	12/25* 神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	60	
	レポート	40	

科目名	作業療法研究	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	15	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実務 経歴	病院内での対象者の姿勢改善や生活行為の不自由さ等の解決のための研究・指導経験あり。
担当教員	白田 典正		

概要	研究の考え方, 研究過程, 研究デザイン, 批判的論文の読み方の学習を通して, 研究の実践や文献抄読をするうえで必要な基本的知識や態度の習得を図る。また, 保健・医療・福祉領域からの先行研究資料や文献等の資料収集, 実験および調査の方法や得られたデータの整理と解釈の学習を通じて研究疑問の作成や, 研究計画立案等で注意しなければならない要点についても学習する。
一般目標 (GIO)	作業療法学研究における倫理の必要性と配慮の具体を学ぶ。(H-1)①、②、③、④

教科書	「作業療法研究法」 医歯薬出版
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	作業療法研究法の概論 [研究とは何をするのか, 研究課程]	(H-1)①	白田
2	研究の種類 [文献研究, 調査研究, 実験研究]	(H-1)①	白田
3	研究の種類 [事例研究], 研究と倫理	(H-1)①～②	白田
4	研究にかかわる基礎知識 [研究計画の手順と論文構成, 研究とEBMの立証]	(H-1)③	白田
5	研究にかかわる基礎知識 [統計解析にかかわる基礎知識 尺度・検定など]	(H-1)③	白田
6	研究にかかわる基礎知識 [質的研究にかかわる基礎知識]	(H-1)③	白田
7	研究論文の発表と手続き・臨床研究の実践例と動向	(H-1)④	白田
8	研究疑問の立て方と解決法	(H-1)④	白田

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100%	

科目名	作業療法研究	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	15	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実務 経歴	病院内での対象者の姿勢改善や生活行為の不自由さ等の解決のための研究・指導経験あり。
担当教員	白田 典正		

概要	研究の考え方, 研究過程, 研究デザイン, 批判的論文の読み方の学習を通して, 研究の実践や文献抄読をするうえで必要な基本的知識や態度の習得を図る。また, 保健・医療・福祉領域からの先行研究資料や文献等の資料収集, 実験および調査の方法や得られたデータの整理と解釈の学習を通じて研究疑問の作成や, 研究計画立案等で注意しなければならない要点についても学習する。
一般目標 (GIO)	作業療法学研究における倫理の必要性和配慮の具体を学ぶ。(H-1)①、②、③、④

教科書	「作業療法研究法」 医歯薬出版
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	日付	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/04	作業療法研究法の概論 [研究とは何をするのか, 研究課程]	(H-1)①	白田
2	04/11	研究の種類 [文献研究、調査研究、実験研究]	(H-1)①	白田
3	04/18	研究の種類 [事例研究]、研究と倫理	(H-1)①～②	白田
4	04/25	研究にかかわる基礎知識 [研究計画の手順と論文構成, 研究と EBM の立証]	(H-1)③	白田
5	05/02	研究にかかわる基礎知識 [統計解析にかかわる基礎知識 尺度・検定など]	(H-1)③	白田
6	05/09	研究にかかわる基礎知識 [質的研究にかかわる基礎知識]	(H-1)③	白田
7	05/16	研究論文の発表と手続き・臨床研究の実践例と動向	(H-1)④	白田
8	05/16	研究疑問の立て方と解決法	(H-1)④	白田

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100%	

科目名	地域作業療法学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経験	科目内容について、作業療法臨床に従事した経験を十分に有する。
担当教員	谷口 賢一		
概要	地域リハビリテーション、地域作業療法の基礎について学習する。職業リハビリテーションや領域ごとに地域作業療法について概説し、作業療法士の役割や必要な技能について理解を深める。		
一般目標 (GIO)	地域における基本的な作業療法について理解する (F-3-1) 就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。(F-3-2) 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。(F-3-3)		
教科書	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学第4版		
参考書・教材	講師配布資料		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	地域リハビリテーション・地域作業療法①	F-3-1)	谷口
2	地域リハビリテーション・地域作業療法②	F-3-1)	谷口
3	地域リハビリテーション・地域作業療法③	F-3-1)	谷口
4	住環境整備・福祉用具①	F-3-3)	谷口
5	住環境整備・福祉用具②	F-3-3)	谷口
6	住環境整備・福祉用具③	F-3-3)	谷口
7	住環境整備・福祉用具④	F-3-3)	谷口
8	職業リハビリテーション (就労支援) ①	F-3-2)	谷口
9	職業リハビリテーション (就労支援) ②	F-3-2)	谷口
10	職業リハビリテーション (就労支援) ③	F-3-2)	谷口
11	領域別の地域作業療法①司法領域	F-3-1)	谷口
12	領域別の地域作業療法②発達障害領域 (学校等)	F-3-1)	谷口
13	領域別の地域作業療法③災害リハビリテーション	F-3-1)	谷口
14	領域別の地域作業療法④精神障害領域	F-3-1)	谷口
15	領域別の地域作業療法⑤精神障害領域	F-3-1)	谷口

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験・レポート 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験		
	レポート		

科 目 名	基礎作業療法学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経験	科目内容について、作業療法臨床に従事した経験を十分に有する。
担当教員	高橋 真紀		
概要	作業に関する基礎知識について理解すると共に、各種作業活動について実習する。		
一般目標 (GIO)	作業を治療に用いる際に必要となる基本的な知識と技術を修得する。(E-1) 職業人としての常識的態度を身につける。(G-1) 専門職としての責任ある行動を身につける。(G-1)		

教科書	作業—その治療的応用 改訂第3版 協同医書出版 作業療法ゴールドマスターテキスト改訂第3版 作業学 メジカルビュー社
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員	
1	オリエンテーション・グループ作り・片手作業体験	E-1-2)①②③④	高橋	
2	「ちらしで箱を作る」作業分析		高橋	
3	グループにて資料作り、作業指導・作戦会議	G-1-1)⑤⑥	高橋	
4	グループにて資料作り、作業指導・作戦会議	G-1-2)①②④⑤	高橋	
5	あんでるせん	E-1-2)⑥⑦⑧	高橋	
6			⑨⑩⑪	高橋
7	タイルモザイク		高橋	
8		G-1-1)①②③	高橋	
9	木工	④⑤⑥	高橋	
10	(初回にグループ決定)		高橋	
11	陶芸	G-1-2)①②③	高橋	
12		④⑤	高橋	
13	革細工		高橋	
14			高橋	
15	写真撮影、お手玉づくり・ミサンガ・雑巾縫い・ボタンつけ		高橋	

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験 レポート	80	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上およびレポート、平常評価（出席状況や授業態度など）を総合的に評価する。
平常評価	20		

科目名	基礎作業療法評価学演習 I	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実 務 経 歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションで身体機能基礎評価の実績がある
担当教員	谷 紅 白田 典正 他		

概要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の各種検査測定等の評価方法及びその実施について学習する。
----	---

一般目標 (GIO)	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)
------------	---

教科書	「作業療法評価学 第3版」 医学書院 「新・徒手筋力検査法 第10版」 協同医書出版社 講師作成資料 (配布プリント含む)
-----	--

参考書・教材	「作業療法技術ガイド第3版」 文光堂 「リハビリテーションにおける評価法」 医歯薬出版 「ベッドサイドの神経のみかた」 南山堂
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応CC)	担当教員
1・2	領域共通の評価法:ROM-T ①(基本事項の確認・上肢)	F-1-1)⑥	白田・他
3・4	領域共通の評価法:ROM-T ②(上肢・手部)	F-1-1)⑥	白田・他
5・6	領域共通の評価法:ROM-T ③(下肢・足部)	F-1-1)⑥	白田・他
7・8	領域共通の評価法:ROM-T ④(足部・(頸部・体幹)	F-1-1)⑥	白田・他
9・10	領域共通の評価法:ROM-T ⑤(頸部・体幹)	F-1-1)⑥	白田・他
11・12	ROM-T 筆記試験	F-1-1)⑥	白田・他
13・14	ROM-T 実技試験	F-1-1)⑥	白田・他
15・16	領域共通の評価法:MMT ①(基本事項の確認・上肢)	F-1-1)⑦	白田・他
17・18	領域共通の評価法:MMT ②(上肢・手部)	F-1-1)⑦	白田・他
19・20	領域共通の評価法:MMT ③(下肢・足部)	F-1-1)⑦	白田・他
21・22	領域共通の評価法:MMT ④(足部・(頸部・体幹)	F-1-1)⑦	白田・他
23・24	領域共通の評価法:MMT ⑤(頸部・体幹)	F-1-1)⑦	白田・他
25・26	領域共通の評価法:MMT ⑥(手指)その他の筋力	F-1-1)⑦	白田・他
27・28	MMT 筆記試験	F-1-1)⑦	白田・他
29・30	MMT 実技試験	F-1-1)⑦	白田・他

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	70	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	実技	30	

科目名	基礎作業療法評価学演習 I	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実 務 経 歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションで身体機能基礎評価の実績がある
担当教員	谷 紅 白田 典正 他		

概要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の各種検査測定等の評価方法及びその実施について学習する。
----	---

一般目標 (GIO)	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)
------------	---

教科書	「作業療法評価学 第3版」 医学書院 「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社 講師作成資料 (配布プリント含む)
-----	---

参考書・教材	「作業療法技術ガイド第3版」 文光堂 「リハビリテーションにおける評価法」 医歯薬出版 「ベッドサイドの神経のみかた」 南山堂
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	04/11 領域共通の評価法:ROM-T ①(基本事項の確認・上肢)	F-1-1)⑥	白田・他
3・4	04/18 領域共通の評価法:ROM-T ②(上肢・手部)	F-1-1)⑥	白田・他
5・6	04/25 領域共通の評価法:ROM-T ③(下肢・足部)	F-1-1)⑥	白田・他
7・8	05/09 領域共通の評価法:ROM-T ④(足部・(頸部・体幹)	F-1-1)⑥	白田・他
9・10	05/16 領域共通の評価法:ROM-T ⑤(頸部・体幹)	F-1-1)⑥	白田・他
11・12	05/23 ROM-T 筆記試験	F-1-1)⑥	白田・他
13・14	05/31 ROM-T 実技試験	F-1-1)⑥	白田・他
15・16	06/07 領域共通の評価法:MMT ①(基本事項の確認・上肢)	F-1-1)⑦	白田・他
17・18	06/13 領域共通の評価法:MMT ②(上肢・手部)	F-1-1)⑦	白田・他
19・20	06/20 領域共通の評価法:MMT ③(下肢・足部)	F-1-1)⑦	白田・他
21・22	06/28 領域共通の評価法:MMT ④(足部・(頸部・体幹)	F-1-1)⑦	白田・他
23・24	07/05 領域共通の評価法:MMT ⑤(頸部・体幹)	F-1-1)⑦	白田・他
25・26	07/12 領域共通の評価法:MMT ⑥(手指)その他の筋力	F-1-1)⑦	白田・他
27・28	07/18 MMT 筆記試験	F-1-1)⑦	白田・他
29・30	07/19 MMT 実技試験	F-1-1)⑦	白田・他

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	実技	20	
	平常試験	20	

科目名	基礎作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	1	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実 務 経 歴	身体障害、高齢期、精神障害の臨床経験により、領域共通の評価の基礎について学んだ。
担当教員	白田 典正 佐藤 正輝 他		

概要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の各種検査測定等の評価方法及びその実施を中心に学習する。
----	---

一般目標 (GIO)	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)
------------	---

教科書	「作業療法評価学 第3版」 医学書院 「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社 講師作成資料 (配布プリント含む)
-----	---

参考書・教材	「作業療法技術ガイド第3版」 文光堂「リハビリテーションにおける評価法」 医歯薬出版 「ベッドサイドの神経のみかた」 南山堂
--------	---

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	領域共通の評価法:反射検査	F-1-1)⑧	白田・他
2	領域共通の評価法:反射・姿勢反射・筋緊張	F-1-1)⑧⑩	白田・他
3	領域共通の評価法:形態計測	F-1-1)⑤	白田・他
4	領域共通の評価法:知覚検査①	F-1-1)⑨	白田・他
5	領域共通の評価法:知覚検査②	F-1-1)⑨	白田・他
6	領域共通の評価法:協調性(失調含む)検査①	F-1-1)⑥	白田・他
7	領域共通の評価法:協調性(失調含む)検査②	F-1-1)⑥	白田・他
8	領域共通の評価法:上肢機能検査①	F-1-1)⑫	白田・他
9	領域共通の評価法:上肢機能検査②	F-1-1)⑫	白田・他
10	領域共通の評価法:面接・観察①	F-1-1)④	白田・他
11	領域共通の評価法:面接・観察②	F-1-1)④	白田・他
12	領域共通の評価法:バイタルサイン・意識レベル①	F-1-1)②③	白田・他
13	領域共通の評価法:バイタルサイン・意識レベル②	F-1-1)②③	白田・他
14	評価の手順:高次脳、気分・不安・うつ・ADL、興味・役割・QOL①	F-1-3,4)②	白田・他
15	評価の手順:高次脳、気分・不安・うつ・ADL、興味・役割・QOL②	F-1-3,4)②	白田・他

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	報告書	40	

科目名	基礎作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	1	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実 務 経 歴	身体障害、高齢期、精神障害の臨床経験により、領域共通の評価の基礎について学んだ。
担当教員	白田 典正 佐藤 正輝 他		

概要	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」といわれる。本科目では評価学の基礎、対象者の心身の状態を把握するのに必要な領域共通の各種検査測定等の評価方法及びその実施を中心に学習する。
----	---

一般目標 (GIO)	対象者にとって意味ある作業が可能かどうかを探求するためやその支援のために必要な評価に関する知識と技術を習得する。(F-1)
------------	---

教科書	「作業療法評価学 第3版」 医学書院 「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社 講師作成資料 (配布プリント含む)
-----	---

参考書・教材	「作業療法技術ガイド第3版」 文光堂「リハビリテーションにおける評価法」 医歯薬出版 「ベッドサイドの神経のみかた」 南山堂
--------	---

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応CC)	担当教員
1	09/19 領域共通の評価法:反射検査	F-1-1)⑧	白田・他
2	09/26 領域共通の評価法:反射・姿勢反射・筋緊張	F-1-1)⑧⑩	白田・他
3	10/03 領域共通の評価法:形態計測	F-1-1)⑤	白田・他
4	10/10 領域共通の評価法:知覚検査①	F-1-1)⑨	白田・他
5	10/17 領域共通の評価法:知覚検査②	F-1-1)⑨	白田・他
6	10/24 領域共通の評価法:協調性(失調含む)検査①	F-1-1)⑥	白田・他
7	10/31 領域共通の評価法:協調性(失調含む)検査②	F-1-1)⑥	白田・他
8	11/07 領域共通の評価法:上肢機能検査①	F-1-1)⑫	白田・他
9	11/14 領域共通の評価法:上肢機能検査②	F-1-1)⑫	白田・他
10	11/21 領域共通の評価法:面接・観察①	F-1-1)④	白田・他
11	11/28 領域共通の評価法:面接・観察②	F-1-1)④	白田・他
12	12/05 領域共通の評価法:バイタルサイン・意識レベル①	F-1-1)②③	白田・他
13	12/12 領域共通の評価法:バイタルサイン・意識レベル②	F-1-1)②③	白田・他
14	12/19 評価の手順:高次脳、気分・不安・うつ・ADL、興味・役割・QOL①	F-1-3,4)②	白田・他
15	12/26 評価の手順:高次脳、気分・不安・うつ・ADL、興味・役割・QOL②	F-1-3,4)②	白田・他

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	60	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	報告書	40	



科目名	疾患別作業療法評価学演習 I	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の知識を振り返ると共に、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-3 ②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-4 ②)</li> </ul>		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> <li>「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	画像読影の基礎	F1-2, 3, 4 ①	福岡
2	画像読影①	F1-2, 3, 4 ①	福岡
3	画像読影②	F1-2, 3, 4 ①	福岡
4	呼吸器疾患①	F1-4 ①	白田
5	呼吸器疾患②	F1-4 ①	白田
6	循環器疾患①	F1-4 ①	白田
7	循環器疾患②	F1-4 ①	白田
8	脳血管障害①	F1-3 ①	谷口
9	脳血管障害②	F1-3 ①	谷口
10	外傷性脳損傷①	F1-3 ①	谷口
11	外傷性脳損傷②	F1-3 ①	谷口
12	関節リウマチ	F1-3 ①	谷
13	骨関節疾患	F1-3 ①	谷
14	神経筋疾患①	F1-3 ①	福岡
15	神経筋疾患②	F1-3 ①	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で進級資格を得る。 評価方法：レポート得点60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	授業レポート	100	

科目名	疾患別作業療法評価学演習 I	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の知識を振り返ると共に、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①)</li> <li>・神経障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-3 ②)</li> <li>・内部障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-4 ②)</li> </ul>		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> <li>・「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容		SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/04	画像読影の基礎	F1-2, 3, 4 ①	福岡
2	04/12	画像読影①	F1-2, 3, 4 ①	福岡
3	04/19	画像読影②	F1-2, 3, 4 ①	福岡
4	04/26	呼吸器疾患①	F1-4 ①	白田
5	05/02	呼吸器疾患②	F1-4 ①	白田
6	05/10	循環器疾患①	F1-4 ①	白田
7	05/17	循環器疾患②	F1-4 ①	白田
8	05/24	脳血管障害①	F1-3 ①	谷口
9	05/30	脳血管障害②	F1-3 ①	谷口
10	06/06	外傷性脳損傷①	F1-3 ①	谷口
11	06/14	外傷性脳損傷②	F1-3 ①	谷口
12	06/21	関節リウマチ	F1-3 ①	谷
13	06/27	骨関節疾患	F1-3 ①	谷
14	07/04	神経筋疾患①	F1-3 ①	福岡
15	07/11	神経筋疾患②	F1-3 ①	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で進級資格を得る。 評価方法：レポート得点60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	授業レポート	100	

科目名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷 紅		
概要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-2 ①②)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-3 ①②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-4 ①②)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	<u>手外科、末梢神経障害</u> ☆	F1-2 ①②	谷
15・16	<u>熱傷、切断</u> ☆	F1-2 ①②	谷
17・18	<u>脊髄損傷①</u> ☆	F1-2 ①②	白田
19・20	<u>脊髄損傷②</u> ☆	F1-2 ①②	白田
21・22	嚥下障害 (喀痰、吸引含む) ☆	F1-3 ①②	白田
23・24	糖尿病☆	F1-4 ①②	白田
25・26	終末期作業療法☆	F1-4 ①②	福岡
27・28	神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
29・30	神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	60	
	レポート	40	

科目名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷 紅		
概要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-2 ①②)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-3 ①②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-4 ①②)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	09/21 高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	09/28 高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	10/05 動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	10/12 動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	10/19 動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	10/26 動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	11/02 <u>手外科、末梢神経障害</u> ☆	F1-2 ①②	谷
15・16	11/09 <u>熱傷、切断</u> ☆	F1-2 ①②	谷
17・18	11/17* <u>脊髄損傷①</u> ☆	F1-2 ①②	白田
19・20	11/30 <u>脊髄損傷②</u> ☆	F1-2 ①②	白田
21・22	12/07 嚥下障害 (喀痰、吸引含む) ☆	F1-3 ①②	白田
23・24	12/14 糖尿病☆	F1-4 ①②	白田
25・26	12/18* 終末期作業療法☆	F1-4 ①②	福岡
27・28	12/21 神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
29・30	12/25* 神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	60	
	レポート	40	

科目名	老年期障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	高橋 真紀 谷口 賢一		

概要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。
----	---

一般目標 (GIO)	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)
------------	-----------------------------------

教科書	標準作業療法学(専門分野) 高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
-----	--

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション、高齢者の特徴・疾患、高齢者用体操プログラム	F-2-7)	高 橋
2	高齢者の時代背景を知ろう①	F-2-7)	高 橋
3	高齢者の時代背景を知ろう②	F-2-7)	高 橋
4	高齢者の時代背景を知ろう③	F-2-7)	高 橋
5	症例検討①	F-2-7)	高 橋
6	症例検討②	F-2-7)	高 橋
7	高齢者とのコミュニケーション	F-2-7)	谷 口
8	認知症の評価・作業療法①	F-2-7)	谷 口
9	認知症の評価・作業療法②	F-2-7)	谷 口
10	認知症の評価・作業療法③	F-2-7)	谷 口
11	認知症の評価・作業療法④	F-2-7)	谷 口
12	Activity体験学習	F-2-7)	高 橋
13	症例検討③	F-2-7)	高 橋
14	症例検討④	F-2-7)	高 橋
15	評価実習を終えて・試験に向けて・まとめ	F-2-7)	高 橋

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	疾患別作業療法評価学演習 I	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の知識を振り返ると共に、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-3 ②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-4 ②)</li> </ul>		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> <li>「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	画像読影の基礎	F1-2, 3, 4 ①	福岡
2	画像読影①	F1-2, 3, 4 ①	福岡
3	画像読影②	F1-2, 3, 4 ①	福岡
4	呼吸器疾患①	F1-4 ①	白田
5	呼吸器疾患②	F1-4 ①	白田
6	循環器疾患①	F1-4 ①	白田
7	循環器疾患②	F1-4 ①	白田
8	脳血管障害①	F1-3 ①	谷口
9	脳血管障害②	F1-3 ①	谷口
10	外傷性脳損傷①	F1-3 ①	谷口
11	外傷性脳損傷②	F1-3 ①	谷口
12	関節リウマチ	F1-3 ①	谷
13	骨関節疾患	F1-3 ①	谷
14	神経筋疾患①	F1-3 ①	福岡
15	神経筋疾患②	F1-3 ①	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で進級資格を得る。 評価方法：レポート得点60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	授業レポート	100	

科目名	疾患別作業療法評価学演習 I	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する評価の知識を振り返ると共に、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器・神経・内部障害を生じる代表的疾患に対する画像評価について説明できる (F1-2, 3, 4 ①)</li> <li>・神経障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-3 ②)</li> <li>・内部障害を生じる代表的疾患に対して、評価の主たるものを模擬実践できる (F-1-4 ②)</li> </ul>		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> <li>・「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社</li> </ul>
参考書・教材	適宜資料を配布する
履修上の注意点	

実施回	授業内容		SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/04	画像読影の基礎	F1-2, 3, 4 ①	福岡
2	04/12	画像読影①	F1-2, 3, 4 ①	福岡
3	04/19	画像読影②	F1-2, 3, 4 ①	福岡
4	04/26	呼吸器疾患①	F1-4 ①	白田
5	05/02	呼吸器疾患②	F1-4 ①	白田
6	05/10	循環器疾患①	F1-4 ①	白田
7	05/17	循環器疾患②	F1-4 ①	白田
8	05/24	脳血管障害①	F1-3 ①	谷口
9	05/30	脳血管障害②	F1-3 ①	谷口
10	06/06	外傷性脳損傷①	F1-3 ①	谷口
11	06/14	外傷性脳損傷②	F1-3 ①	谷口
12	06/21	関節リウマチ	F1-3 ①	谷
13	06/27	骨関節疾患	F1-3 ①	谷
14	07/04	神経筋疾患①	F1-3 ①	福岡
15	07/11	神経筋疾患②	F1-3 ①	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で進級資格を得る。 評価方法：レポート得点60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	授業レポート	100	

科目名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷 紅		
概要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-2 ①②)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-3 ①②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-4 ①②)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	<u>手外科、末梢神経障害</u> ☆	F1-2 ①②	谷
15・16	<u>熱傷、切断</u> ☆	F1-2 ①②	谷
17・18	<u>脊髄損傷①</u> ☆	F1-2 ①②	白田
19・20	<u>脊髄損傷②</u> ☆	F1-2 ①②	白田
21・22	嚥下障害 (喀痰、吸引含む) ☆	F1-3 ①②	白田
23・24	糖尿病☆	F1-4 ①②	白田
25・26	終末期作業療法☆	F1-4 ①②	福岡
27・28	神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
29・30	神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	60	
	レポート	40	

科目名	疾患別作業療法評価学演習Ⅱ	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、運動器障害、神経障害、内部障害の評価に従事した。
担当教員	白田 典正 谷 紅		
概要	運動器障害・神経障害・内部障害により生じる代表的疾患に対する、基本的な評価方法や知識を座学で学習する。その後、評価のオリエンテーション、実技、結果の記載、結果の解釈を、模擬評価を中心とした授業形態で行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-2 ①②)</li> <li>神経障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-3 ①②)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、画像評価を含む基本的な作業療法評価について説明できる。また、評価の主たるものを模擬実践できる (F1-4 ①②)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「標準作業療法学 作業療法評価学 第2版」 医学書院</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	09/21 高次脳機能障害①☆	F1-3 ①②	福岡
3・4	09/28 高次脳機能障害②☆	F1-3 ①②	福岡
5・6	10/05 動作分析①	F1-3 ①②	福岡
7・8	10/12 動作分析②	F1-3 ①②	福岡
9・10	10/19 動作分析③	F1-3 ①②	福岡
11・12	10/26 動作分析④	F1-3 ①②	福岡
13・14	11/02 <u>手外科、末梢神経障害</u> ☆	F1-2 ①②	谷
15・16	11/09 <u>熱傷、切断</u> ☆	F1-2 ①②	谷
17・18	11/17* <u>脊髄損傷①</u> ☆	F1-2 ①②	白田
19・20	11/30 <u>脊髄損傷②</u> ☆	F1-2 ①②	白田
21・22	12/07 嚥下障害（喀痰、吸引含む）☆	F1-3 ①②	白田
23・24	12/14 糖尿病☆	F1-4 ①②	白田
25・26	12/18* 終末期作業療法☆	F1-4 ①②	福岡
27・28	12/21 神経筋疾患①☆	F1-3 ①②	福岡
29・30	12/25* 神経筋疾患②☆	F1-3 ①②	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	60	
	レポート	40	

科目名	日常生活活動学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、日常生活活動の評価・支援に従事した。
担当教員	高橋 真紀 白田 典正 谷口 賢一		

概要	・日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）の評価および、疾患別の支援について説明・模擬実践できるように、実技や動作分析を中心とした学習を中心に行う
----	---

一般目標（GIO）	・日常生活活動・IADLの評価について説明できる（F2-8②） ・日常生活活動・IADLにおける作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）
-----------	--

教科書	・「PT・OT ビジュアルテキスト ADL」 羊土社
-----	----------------------------

参考書・教材	適宜資料を配布する
--------	-----------

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	日常生活活動の評価①	F2-8②	福岡
3・4	日常生活活動の評価②	F2-8②	福岡
5・6	IADL 支援①	F2-8③	高橋
7・8	IADL 支援②	F2-8③	高橋
9・10	IADL 支援③	F2-8③	高橋
11・12	脳血管障害の日常生活活動①	F2-8③	谷口
13・14	脳血管障害の日常生活活動②	F2-8③	谷口
15・16	脳血管障害の日常生活活動③	F2-8③	谷口
17・18	骨関節疾患の日常生活活動 *	F2-8③	谷口
19・20	関節リウマチの日常生活活動	F2-8③	福岡
21・22	脊髄損傷の日常生活活動① *	F2-8③	白田
23・24	脊髄損傷の日常生活活動② *	F2-8③	白田
25・26	呼吸器疾患の日常生活活動	F2-8③	白田
27・28	心疾患の日常生活活動	F2-8③	白田
29・30	神経変性疾患の日常生活活動	F2-8③	福岡

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験とレポート得点を合算して60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	日常生活活動学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、日常生活活動の評価・支援に従事した。
担当教員	高橋 真紀 白田 典正 谷口 賢一		

概要	・日常生活活動・手段的日常生活活動（IADL）の評価および、疾患別の支援について説明・模擬実践できるように、実技や動作分析を中心とした学習を中心に行う
----	---

一般目標（GIO）	・日常生活活動・IADLの評価について説明できる（F2-8②） ・日常生活活動・IADLにおける作業別の支援について説明・模擬実践できる（F2-8③）
-----------	--

教科書	・「PT・OT ビジュアルテキスト ADL」 羊土社
-----	----------------------------

参考書・教材	適宜資料を配布する
--------	-----------

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応CC)	担当教員
1・2	09/20 日常生活活動の評価①	F2-8②	福岡
3・4	09/27 日常生活活動の評価②	F2-8②	福岡
5・6	10/04 IADL 支援①	F2-8③	高橋
7・8	10/11 IADL 支援②	F2-8③	高橋
9・10	10/18 IADL 支援③	F2-8③	高橋
11・12	10/25 脳血管障害の日常生活活動①	F2-8③	谷口
13・14	11/01 脳血管障害の日常生活活動②	F2-8③	谷口
15・16	11/08 脳血管障害の日常生活活動③	F2-8③	谷口
17・18	11/15 骨関節疾患の日常生活活動 *	F2-8③	谷口
19・20	11/22 関節リウマチの日常生活活動	F2-8③	福岡
21・22	11/29 脊髄損傷の日常生活活動① *	F2-8③	白田
23・24	12/06 脊髄損傷の日常生活活動② *	F2-8③	白田
25・26	12/13 呼吸器疾患の日常生活活動	F2-8③	白田
27・28	12/20 心疾患の日常生活活動	F2-8③	白田
29・30	12/23 神経変性疾患の日常生活活動	F2-8③	福岡

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験とレポート得点を合算して60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	

科目名	義肢装具学	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷 紅	実務 経歴	整形外科勤務の臨床経験から、装具を中心とした知識を有する。
担当教員	谷 紅 佐藤 正輝		
概要	切断および義肢についての基礎知識を学習し、各種義手の基本操作、構造を理解する。また、現在、作業療法における装具学の必要性は極めて重要である。基礎知識を学習した上で、治療・訓練・保存用に使用する各種装具の機能・構造・組み立ての技術・チェックポイントを学習する。		
一般目標 (GIO)	義肢装具に関わる基本的な作業療法について理解する。(F-2-9)		

教科書	「義肢装具と作業療法」 医歯薬出版 教員配布資料		
参考書・教材	「OT 全書 義肢装具学」 協同医書出版 「義肢装具学」 医学書院 「義肢装具のチェックポイント第8版」 医学書院		
履修上の注意点	実物の確認、操作などを通して理解度を高めていきます。		

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	義肢・装具とは	F-2-9)①⑤⑥⑦	谷・佐藤
2	切断とは	F-2-9)②⑥	谷・佐藤
3	義手の分類・部品	F-2-9)③⑤	谷・佐藤
4	義手の訓練・チェックアウト	F-2-9)④	谷・佐藤
5	義手装着の評価・訓練、国家試験問題取り組み	F-2-9)①④	谷・佐藤
6	筋電義手について	F-2-9)⑤	谷・佐藤
7	装具の分類、作業療法士の役割と機能	F-2-9)①⑦	谷・佐藤
8	上肢装具・スプリントについて	F-2-9)⑧	谷・佐藤
9	上肢装具・スプリントのチェックアウト	F-2-9)⑧	谷・佐藤
10	上肢装具・スプリントと治療・訓練	F-2-9)⑧	谷・佐藤
11	義肢・装具の適応疾患 (末梢神経損傷、頸髄損傷)	F-2-9)⑩⑪	谷・佐藤
12	義肢・装具の適応疾患 (慢性関節リウマチ)	F-2-9)⑨⑩⑪	谷・佐藤
13	義肢・装具の適応疾患 (脳血管障害、その他)	F-2-9)⑨⑩⑪	谷・佐藤
14	上肢装具に関する国家試験問題取り組み	F-2-9)⑦～⑩	谷・佐藤
15	自助具、前期分の復習	F-3-3)⑦	谷・佐藤

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験		



科目名	身体機能作業療法治療学演習Ⅰ	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	治療原理について実技を通して学習する。また身体障害、内部障害の代表的疾患に対する基本的な作業療法に対して模擬実践を主体とした授業で学習する。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療原理について説明できる (F2-1③)</li> <li>・身体障害を生じる代表的疾患に対して、作業療法の説明・模擬実践ができる (F2-1 ④)</li> <li>・内部障害を生じる代表的疾患に対して、作業療法の説明・模擬実践ができる (F2-2 ③)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社</li> <li>・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	治療原理① ROMの拡大	F2-1 ③	白田
3・4	治療原理② 感覚・知覚の再教育	F2-1 ③	福岡
5・6	治療原理③ 筋力の維持・増強	F2-1 ③	福岡
7・8	呼吸器疾患①	F2-2 ③	白田
9・10	呼吸器疾患②	F2-2 ③	白田
11・12	循環器疾患①	F2-2 ③	白田
13・14	循環器疾患②	F2-2 ③	白田
15・16	脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
17・18	脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
19・20	外傷性脳損傷①	F2-1 ④	谷口
21・22	外傷性脳損傷②	F2-1 ④	谷口
23・24	関節リウマチ	F2-1 ④	谷
25・26	骨関節疾患	F2-1 ④	谷
27・28	神経変性疾患①	F2-1 ④	福岡
29・30	神経変性疾患②	F2-1 ④	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	授業レポート	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で進級資格を得る。
			評価方法：レポート得点60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	身体機能作業療法治療学演習 I	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一		
概要	治療原理について実技を通して学習する。また身体障害、内部障害の代表的疾患に対する基本的な作業療法に対して模擬実践を主体とした授業で学習する。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療原理について説明できる (F2-1③)</li> <li>・身体障害を生じる代表的疾患に対して、作業療法の説明・模擬実践ができる (F2-1 ④)</li> <li>・内部障害を生じる代表的疾患に対して、作業療法の説明・模擬実践ができる (F2-2 ③)</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 I 骨関節・神経疾患偏」 羊土社</li> <li>・「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 I 内部疾患偏」 羊土社</li> <li>・「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社</li> </ul>		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2 04/03	治療原理① ROMの拡大	F2-1 ③	白田
3・4 04/10	治療原理② 感覚・知覚の再教育	F2-1 ③	福岡
5・6 04/17	治療原理③ 筋力の維持・増強	F2-1 ③	福岡
7・8 04/24	呼吸器疾患①	F2-2 ③	白田
9・10 05/01	呼吸器疾患②	F2-2 ③	白田
11・12 05/08	循環器疾患①	F2-2 ③	白田
13・14 05/15	循環器疾患②	F2-2 ③	白田
15・16 05/22	脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
17・18 05/29	脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
19・20 06/05	外傷性脳損傷①	F2-1 ④	谷口
21・22 06/12	外傷性脳損傷②	F2-1 ④	谷口
23・24 06/19	関節リウマチ	F2-1 ④	谷
25・26 06/26	骨関節疾患	F2-1 ④	谷
27・28 07/03	神経変性疾患①	F2-1 ④	福岡
29・30 07/10	神経変性疾患②	F2-1 ④	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	授業レポート	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で進級資格を得る。
			評価方法：レポート得点 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	身体機能作業療法治療学演習Ⅱ	単位数	3	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	90	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一 谷 紅		

概要	終末期の基本的な作業療法について理解を深める。また、身体障害、内部障害、高次脳機能障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践ができるように、座学と実技を平衡して学習を行う。
----	---

一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる (F2-1 ①②④)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる (F2-2 ①～③)</li> <li>終末期の基本的な作業療法について理解する (F2-3 ①～⑥)</li> <li>各高次脳機能障害の特性、予後、作業療法について説明・模擬実践できる (F2-4 ①②③)</li> </ul>
------------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社</li> <li>「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社</li> </ul>
-----	--

参考書・教材	適宜資料を配布する
--------	-----------

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1 2 3	高次脳機能障害①☆	F2-4 ①②③	福岡
4 5 6	高次脳機能障害②☆	F2-4 ①②③	福岡
7 8 9	高次脳機能障害③	F2-4 ①②③	福岡
10 11 12	高次脳機能障害④	F2-1 ①②④	福岡
13 14 15	脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
16 17 18	脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
19 20 21	脳血管障害③	F2-4 ①②③	谷口
22 23 24	神経筋疾患☆	F2-1 ①②④	福岡
25 26 27	手外科・末梢神経障害☆	F2-1 ①②④	谷
28 29 30	熱傷、切断☆	F2-1 ①②④	谷
31 32 33	脊髄損傷①☆	F2-1 ①②④	白田
34 35 36	脊髄損傷②☆	F2-1 ①②④	白田
37 38 39	嚥下障害 (喀痰、吸引含む) ☆	F2-1 ①②④	白田
40 41 42	糖尿病☆	F2-2 ①～③	白田
43 44 45	終末期作業療法☆	F2-2 ①～⑥	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験	100	
	レポート	0	

科目名	身体機能作業療法治療学演習Ⅱ	単位数	3	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	90	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、身体障害の作業療法に従事した。
担当教員	白田 典正 谷口 賢一 谷 紅		

概要	終末期の基本的な作業療法について理解を深める。また、身体障害、内部障害、高次脳機能障害の代表的疾患に対する生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践ができるように、座学と実技を平衡して学習を行う。
----	---

一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる (F2-1 ①②④)</li> <li>内部障害を生じる代表的疾患に対して、生活障害の特性、予後、基本的な作業療法について説明・模擬実践できる (F2-2 ①～③)</li> <li>終末期の基本的な作業療法について理解する (F2-3 ①～⑥)</li> <li>各高次脳機能障害の特性、予後、作業療法について説明・模擬実践できる (F2-4 ①②③)</li> </ul>
------------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 骨関節・神経疾患偏」 羊土社</li> <li>「PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学Ⅰ 内部疾患偏」 羊土社</li> <li>「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」 メジカルビュー社</li> </ul>
-----	--

参考書・教材	適宜資料を配布する
--------	-----------

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1 2 3	09/18 高次脳機能障害①☆	F2-4 ①②③	福岡
4 5 6	09/25 高次脳機能障害②☆	F2-4 ①②③	福岡
7 8 9	10/02 高次脳機能障害③	F2-4 ①②③	福岡
10 11 12	10/09 高次脳機能障害④	F2-1 ①②④	福岡
13 14 15	10/16 脳血管障害①	F2-1 ④	谷口
16 17 18	10/23 脳血管障害②	F2-1 ④	谷口
19 20 21	10/30 脳血管障害③	F2-4 ①②③	谷口
22 23 24	11/06 神経筋疾患☆	F2-1 ①②④	福岡
25 26 27	11/13 手外科・末梢神経障害☆	F2-1 ①②④	谷
28 29 30	11/20 熱傷、切断☆	F2-1 ①②④	谷
31 32 33	11/27 脊髄損傷①☆	F2-1 ①②④	白田
34 35 36	12/04 脊髄損傷②☆	F2-1 ①②④	白田
37 38 39	12/11 嚥下障害 (喀痰、吸引含む) ☆	F2-1 ①②④	白田
40 41 42	12/18 糖尿病☆	F2-2 ①～③	白田
43 44 45	12/25 終末期作業療法☆	F2-2 ①～⑥	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験およびレポート得点を合算して60点以上。また、出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート	0	

科目名	精神障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口賢一		
概要	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価、作業療法について学ぶ。		
一般目標 (GIO)	精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について学ぶ。(F-1-5) 精神障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について学ぶ。(F-2-5)		

教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法第3版 中央法規 精神障害と作業療法【新版】 三輪書店
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	疾患別作業療法:統合失調症①	F-1-4) F-2-5)	谷口
3・4	疾患別作業療法:統合失調症①		谷口
5・6	疾患別作業療法:気分障害		谷口
7・8	疾患別作業療法:依存性障害		谷口
9・10	疾患別作業療法:パーソナリティ障害・摂食障害		谷口
11・12	疾患別作業療法:神経症性障害		谷口
13・14	疾患別作業療法:小児精神障害		谷口
15・16	プログラミングと作業療法①		谷口
17・18	プログラミングと作業療法②		谷口
19・20	プログラミングと作業療法③		谷口
21・22	プログラミングと作業療法④		谷口
23・24	作業療法理論・認知リハ		谷口
25・26	症例検討①		谷口
27・28	症例検討②		谷口
29・30	症例検討③		谷口

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準:授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法:定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。

科目名	発達障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	福岡 幹彦	実務 経験	総合病院にて4年半、小児疾患の作業療法に従事した。
担当教員			
概要	発達障害を生じる代表的疾患について生活障害の特性、予後、評価と基本的な作業療法について座学で基本的知識を習得後、模擬実践できるように実技・グループワークにて学習を行う。		
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患ごとの生活障害の特性について説明できる (F2-6 ①)</li> <li>・疾患ごとの予後について説明できる (F2-6 ②)</li> <li>・疾患ごとの評価と作業療法について説明・模擬実践できる (F-2-6 ③)</li> </ul>		
教科書	・「標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版」医学書院		
参考書・教材	適宜資料を配布する		
履修上の注意点			

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	原始反射、姿勢反射、平衡反応の検査①	F2-6 ③	福岡
3・4	原始反射、姿勢反射、平衡反応の検査②、発達検査①	F2-6 ③	福岡
5・6	発達検査②	F2-6 ③	福岡
7・8	脳性麻痺①	F2-6 ①②③	福岡
9・10	脳性麻痺②	F2-6 ①②③	福岡
11・12	神経発達症群 (グループワーク①)	F2-6 ①②③	福岡
13・14	神経発達症群 (グループワーク②)	F2-6 ①②③	福岡
15・16	神経発達症群 (グループワーク③)	F2-6 ①②③	福岡
17・18	神経発達症群 (グループワーク④)	F2-6 ①②③	福岡
19・20	神経発達症群 (まとめ・国試①)	F2-6 ①②③	福岡
21・22	神経発達症群 (まとめ・国試②)	F2-6 ①②③	福岡
23・24	ケーススタディ①	F2-6 ③	福岡
25・26	ケーススタディ②	F2-6 ③	福岡
27・28	ケーススタディ③	F2-6 ③	福岡
29・30	まとめ	F2-6 ③	福岡

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験	100	評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験とレポート点を合算し、60点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	レポート		

科目名	老年期障害作業療法治療学演習	単位数	2	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	高橋 真紀 谷口 賢一		

概要	老年期の特徴とリハビリテーションについての理解を深め、老年期をとりまく社会資源を知り、その連携のあり方を探る。また、老年期に対する作業療法とその役割を考える。
----	---

一般目標 (GIO)	高齢期障害に対する基本的な作業療法について理解する。(F-2-7)
------------	-----------------------------------

教科書	標準作業療法学 (専門分野) 高齢期作業療法学 第3版 医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店
-----	---

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション、高齢者の特徴・疾患、高齢者用体操プログラム	F-2-7)	高 橋
2	高齢者の時代背景を知ろう①	F-2-7)	高 橋
3	高齢者の時代背景を知ろう②	F-2-7)	高 橋
4	高齢者の時代背景を知ろう③	F-2-7)	高 橋
5	症例検討①	F-2-7)	高 橋
6	症例検討②	F-2-7)	高 橋
7	高齢者とのコミュニケーション	F-2-7)	谷 口
8	認知症の評価・作業療法①	F-2-7)	谷 口
9	認知症の評価・作業療法②	F-2-7)	谷 口
10	認知症の評価・作業療法③	F-2-7)	谷 口
11	認知症の評価・作業療法④	F-2-7)	谷 口
12	Activity体験学習	F-2-7)	高 橋
13	症例検討③	F-2-7)	高 橋
14	症例検討④	F-2-7)	高 橋
15	評価実習を終えて・試験に向けて・まとめ	F-2-7)	高 橋

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験		

科目名	地域作業療法学演習Ⅰ	単位数	2	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	高橋 真紀	実務 経歴	作業療法臨床に従事し、地域分野において十分な知見を有する。
担当教員	谷口 賢一 高橋 真紀		

概要	障害を持ちながら地域で暮らす人々、およびその家族や地域を対象とした作業療法を計画するための知識、また障害を持たない人が経験する老化に伴う心身機能低下や生活不適応状態を可能な限り予防するための作業療法について教授する。さらに健康教育やヘルスプロモーションにおける作業療法について教授する。
----	---

一般目標 (GIO)	地域における基本的な作業療法について理解する。(F-3-1) 実践事例を通して作業療法士の活動内容と役割について学び、地域との連携について理解する。(F-3-3) (F-3-4)
------------	--

教科書	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版 医学書院
参考書・教材	
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	オリエンテーション + 地域作業療法の実践事例	F-3-1)	高橋
2	施設見学ガイドランス、関連事項を調べ、報告する。	F-3-1)	高橋
3	地域作業療法に関連する施設①へ見学実習	F-3-1)	高橋
4	施設①見学報告・まとめ・発表+	F-3-1)	高橋
5	地域作業療法に関連する施設②へ見学実習	F-3	高橋
6	地域作業療法の実践事例～特別講義	F-3	高橋
7	地域作業療法の実践事例～体験実習① + 課題	F-3	高橋
8	地域作業療法の実践事例～体験実習② + 課題	F-3	高橋
9	体験実習ふりかえり・報告 + 課題発表	F-3-4)	高橋
10	地域作業療法の実践事例	F-3	高橋
11	障がいをもった人の生活・視点～障がい者講師を招いて	F-3-3)	高橋
12	障がいをもった人の生活・視点～ふりかえり	F-3-3)	高橋
13	「調べてこよう！公共の施設」	F-3	高橋
14	調査発表 + 住環境整備・支援機器	F-3	高橋
15	高齢者体力測定	F-3	高橋

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	定期試験 レポート課題		評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上およびレポート課題、出席状況や授業参加態度などを総合的に評価する。

科目名	地域作業療法学演習Ⅱ	単位数	1	学科	作業昼間	期	後期
		時間数	30	学年	2	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経歴	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口 賢一		

概要	地域リハビリテーション、地域作業療法の基礎について学習する。住環境整備や予防作業療法について概説し、作業療法士の役割や必要な技能について理解を深める。また、生活行為向上マネジメントについて事例を通して理解を深める。
----	---

一般目標 (GIO)	生活行為向上マネジメント基本的な実施手順について理解する (E-1-4) 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する (F-3-3) 予防に寄与する基本的な作業療法について理解する (F-3-4)
------------	---

教科書	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学第3版 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 医歯薬出版
-----	---

参考書・教材	
--------	--

履修上の注意点	
---------	--

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	住環境整備①	F-3-3)	谷 口
2	住環境整備②	F-3-3)	谷 口
3	住環境整備③	F-3-3)	谷 口
4	予防作業療法①	F-3-4)	谷 口
5	予防作業療法②	F-3-4)	谷 口
6	予防作業療法③	F-3-4)	谷 口
7	予防作業療法④	F-3-4)	谷 口
8	生活行為向上マネジメント①	E-1-4	谷 口
9	生活行為向上マネジメント②	E-1-4	谷 口
10	生活行為向上マネジメント③	E-1-4	谷 口
11	生活行為向上マネジメント④	E-1-4	谷 口
12	生活行為向上マネジメント⑤	E-1-4	谷 口
13	生活行為向上マネジメント⑥	E-1-4	谷 口
14	生活行為向上マネジメント⑦	E-1-4	谷 口
15	生活行為向上マネジメント⑧	E-1-4	谷 口

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準：授業への出席率2/3以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：定期試験 60 点以上および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	定期試験		

科目名	地域体験実習		単位数	1	2	学年	前期
			時間数	45	作業昼間		必修
科目担当責任者	2年生担任						
担当教員	OT全教員						
概要	通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーション等に関する実習を行う。						
一般目標 (GIO)	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなど地域在宅関連分野における作業療法の実際について、臨地で体験・見学し、学びを深める。						
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。</li> <li>・努めて全日出席する事。</li> <li>・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。</li> <li>・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。</li> </ul>						
実習における学習の概要							
実習の期間	当年度2年次の前期における1週間(5日間、計45時間)						
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設						
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 (施設外での自主的な学習時間はこれに含めない)						
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①地域領域における作業療法の実際を見学・体験する ②指定課題(日報等)の作成 を行うものとする。					SB0(対応CC) ・G-1-1)~4) (全実習共通) ・G-4-5) ①② ・F-3-1) ④	
特記事項	新カリキュラム規定に沿い見学実習相当の臨地実習では特に確立した「実習前評価」の形式での学生状況評価は行わないが、態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者については履修を認めない場合がある。						
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法				
	実習指導者評価	(参考)	評価基準：授業への出席率4/5以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを				
	学校評価	100	学校評価に加味して総合的に評価する。				

科目名	評価実習		単位数	3	学科	作業昼間	期	後期
			時間数	135	学年	2	区分	必修
科目担当責任者	2年生担任	実務 経験	総合病院にて4年半、作業療法と実習教育に従事した。					
担当教員	OT各科全教員							
概要	診療参加型実習（クリニカル・クラークシップ形式）に則り、臨床現場における作業療法評価の実際を体験学習し、指導された評価について「実施」段階に到達することを旨とする。また、MTDLP形式で報告書を作成し、実習後に成果を発表する。							
一般目標（GIO）	<b>【GIO】</b> ①クライアントの状況に即して安全な関わりが出来る。 ②適切に情報収集が出来る。 ③クライアントの状況に即した安全で正確な評価手技を「実施」できる。 ④評価結果を統合・解釈し、MTDLP形式の報告書を作成できる。 <b>【SBO（対応CC）】</b> ・G-1-1)～4)、G-2-1)～G-2-5)、G-4-1)～G-4-1-5							
履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。</li> <li>・努めて全日出席する事。</li> <li>・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。</li> <li>・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。</li> </ul>							
<b>実習における学習の概要</b>								
実習の期間	当年度2年次の後期における3週間（15日間、計135時間）							
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設							
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 （施設外での自主的な学習時間はこれに含めない）							
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①検査・評価技術の習練・習得 ②指定課題（日報等）の作成 を行うものとする。							
特記事項	実習前評価にて著しい問題（対象者を害するおそれ、著しい知識不足等）が認められた者については、実習の履修が認められないことがある。							
成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法					
	指導者評価	参考	評価基準：授業への出席率4/5以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを 学校評価に加味して総合的に評価する。					
	学校評価	100						

科目名	作業療法研究演習	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	3	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実務 経歴	病院内での対象者の姿勢改善や生活行為の不自由さ等の解決のための研究・指導経験あり。
担当教員	専任教員		
概要	リハビリテーションに関する研究テーマについて学び、研究仮説設定、先行研究資料、文献等の資料収集等を通じ、臨床総合実習に向けての評価、介入手法などの考え方の基礎知識を確認する。作業療法的手段に関する文献や臨床症例報告、症例研究の抄読、実験研究の内容について検討を行う。		
一般目標 (GIO)	文献的研究の方法(H-2-1)①、②、③、④、⑤ 人を対象とした研究の方法(H-2-2)①、②、③		

教科書	「作業療法研究法」第2版 医学書院
参考書・教材	事例集等の資料を配布。
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	データの取り扱いの留意点	H-2-2	白田
2	データの検証の準備	H-2-2	白田
3	実験研究① 上肢機能検査(データ収集)	H-2-2	白田
4	実験研究② 上肢機能検査(データ収集)	H-2-2	白田
5	実験研究③ 上肢機能検査(データ収集)	H-2-2	白田
6	実験研究④ 上肢機能検査(データ解析)	H-2-2	白田
7	実験研究⑤ 上肢機能検査(データ解析)	H-2-2	白田
8	実験研究⑥ 上肢機能検査(データ解析)	H-2-2	白田
9	実験研究⑦ 上肢機能検査(結果の発表)	H-2-1	白田
10	文献的研究① 事例報告の検索・抄読	H-2-1	白田
11	文献的研究② 研究疑問の検討・設定(仮説生成・反証・特殊事例)	H-2-1	白田
12	文献的研究③ 類似事例報告の収集	H-2-1	白田
13	文献的研究④ 課題解決のための問題点の抽出・研究計画の作成	H-2-1	白田
14	文献的研究⑤ 研究報告の作成	H-2-1	白田
15・16	文献的研究⑥ 研究の成果のプレゼンテーション	H-2-1	白田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	報告書	70	評価基準：定期試験(筆記)なし。 評価方法：作成した報告書・発表の内容評価および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	発表	30	

\*1 データ収集は他学年の参加あり。

\*2 データ収集は他学年の参加あり。

科目名	作業療法研究演習	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	30	学年	3	区分	必修

科目担当責任者	白田 典正	実務 経歴	病院内での対象者の姿勢改善や生活行為の不自由さ等の解決のための研究・指導経験あり。
担当教員	専任教員		
概要	リハビリテーションに関する研究テーマについて学び、研究仮説設定、先行研究資料、文献等の資料収集等を通じ、臨床総合実習に向けての評価、介入手法などの考え方の基礎知識を確認する。作業療法的手段に関する文献や臨床症例報告、症例研究の抄読、実験研究の内容について検討を行う。		
一般目標 (GIO)	文献的研究の方法(H-2-1)①、②、③、④、⑤ 人を対象とした研究の方法(H-2-2)①、②、③		

教科書	「作業療法研究法」第2版 医学書院
参考書・教材	事例集等の資料を配布。
履修上の注意点	

実施回	日付	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1	04/04	データの取り扱いの留意点	(H-2-2)	白田
2	04/04	データの検証の準備	(H-2-2)	白田
3	04/10	実験研究① 上肢機能検査(データ収集)	(H-2-2)	白田
4	04/10	実験研究② 上肢機能検査(データ収集)*1	(H-2-2)	白田
5	04/12	実験研究③ 上肢機能検査(データ収集)*2	(H-2-2)	白田
6	04/12	実験研究④ 上肢機能検査(データ収集)*2	(H-2-2)	白田
7	04/15	実験研究⑤ 上肢機能検査(データ解析)	(H-2-2)	白田
8	04/15	実験研究⑥ 上肢機能検査(結果の発表)	(H-2-2)	白田
9	04/19	文献的研究① 事例報告の検索・抄読	(H-2-1)	白田
10	04/19	文献的研究② 研究疑問の検討・設定(仮説生成・反証・特殊事例)	(H-2-1)	白田
11	04/23	文献的研究③ 類似事例報告の収集	(H-2-1)	白田
12	04/23	文献的研究④ 課題解決のための問題点の抽出・研究計画の作成	(H-2-1)	白田
13	04/26	文献的研究⑤ 研究報告の作成(1)	(H-2-1)	白田
14	04/26	文献的研究⑥ 研究報告の作成(2)	(H-2-1)	白田
15・16	04/30	文献的研究⑦ 研究の成果のプレゼンテーション	(H-2-1)	白田

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	報告書	70	評価基準：定期試験(筆記)なし。 評価方法：作成した報告書・発表の内容評価および出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	発表	30	

\*1 データ収集は他学年の参加あり。

\*2 データ収集は他学年の参加あり。

科目名	臨床作業療法学	単位数	1	学科	作業昼間	期	前期
		時間数	60	学年	3	区分	必修

科目担当責任者	谷口 賢一	実務 経験	病院、介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーションでの実務経験がある。
担当教員	谷口 賢一		

概要	作業療法における臨床の治療方法を再度基礎から学ぶことにより、臨床技能および国家試験に必要な知識と技術を身につける。
一般目標 (GIO)	作業療法士として必要最低限の知識と技術について理解する。

教科書	Question・Bank 共通問題 メディックメディア 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW
参考書・教材	適宜資料を配布する。
履修上の注意点	

実施回	授業内容	SBO (対応 CC)	担当教員
1・2	国家試験特講 (リハ概論・リハ医学)		高橋・谷口
3・4	国家試験特講 (リハ概論・リハ医学)		高橋・谷口
5	国家試験特講 (リハ概論・リハ医学)		高橋・谷口
6・7	国家試験特講 (作業学・作業活動)		高橋・谷口
8・9	国家試験特講 (作業学・作業活動)		高橋・谷口
10	国家試験特講 (作業学・作業活動)		高橋・谷口
11・12	国家試験特講 (問題同定・目標設定・MTDLP)		高橋・谷口
13・14	国家試験特講 (問題同定・目標設定・MTDLP)		高橋・谷口
15	国家試験特講 (問題同定・目標設定・MTDLP)		高橋・谷口
16・17	国家試験特講 (精神疾患)		高橋・谷口
18・19	国家試験特講 (精神疾患)		高橋・谷口
20	国家試験特講 (精神疾患)		高橋・谷口
21・22	国家試験特講 (義肢・装具)		高橋・谷口
23・24	国家試験特講 (義肢・装具)		高橋・谷口
25	国家試験特講 (義肢・装具)		高橋・谷口
26・27	国家試験特講 (歩行・運動学)		高橋・谷口
28・29	国家試験特講 (歩行・運動学)		高橋・谷口
30	国家試験特講 (歩行・運動学)		高橋・谷口

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法 評価基準:授業への出席率2/3以上で評価の対象となる。 評価方法:出席状況や授業態度などを総合的に評価する。
	授業態度	90	
	出席状況	10	

科目名	総合臨床実習 I	単位数	9	学科	作業昼間	前期
		時間数	405	学年	3	必修

科目担当責任者	3年生担任					
担当教員	OT各部 全教員					
概要	臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての、①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる、ことを目標とする。					
一般目標 (GIO)	①倫理観や基本的態度を身につける (G-1) ②許容される臨床技能を実践できる (G-2) ③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる (G-3) ④物品やリスクの管理、記録などの管理運営ができる (G-4)					

履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。</li> <li>・努めて全日出席する事。</li> <li>・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。</li> <li>・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。</li> </ul>					
---------	---	--	--	--	--	--

実習における学習の概要						
実習の期間	当年度3年次の前期における9週間 (45日間、計405時間)					
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設					
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 (施設外での自主的な学習時間はこれに含めない)					
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①検査・評価技術の経験・習練・習得 ②治療手技・技法の経験・習練・習得 ③指定課題 (日報・サマリ等) の作成 ④模擬症例担当による臨床の流れの経験 等を行うものとする。				SBO (対応 CC)	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G-1-1) ~ 4)</li> <li>(全実習共通)</li> <li>・ G-2-1) ~ G-2-5)</li> <li>・ G-3-1) ~ G-3-2)</li> <li>・ G-4-1) ~ G-4-5)</li> </ul>	
特記事項	新カリキュラム規定に沿い実習前評価を行う。態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者など接遇や基本的態度に問題がある者については履修を認めない場合がある。					

成績評価	評価手段	割合 (%)	基準および方法
	実習指導者評価	(参考)	評価基準：授業への出席率4/5以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを 学校評価に加味して総合的に評価する。
	学校評価	100	

科目名	総合臨床実習Ⅱ	単位数	9	学科	作業昼間	前期
		時間数	405	学年	3	必修

科目担当責任者	3年生担任
担当教員	OT各部 全教員
概要	臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての、①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる、ことを目標とする。
一般目標 (GIO)	①倫理観や基本的態度を身につける (G-1) ②許容される臨床技能を実践できる (G-2) ③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる (G-3) ④物品やリスクの管理、記録などの管理運営ができる (G-4)

履修上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、実習前評価にて合格した者に対してのみ履修を認める。</li> <li>・努めて全日出席する事。</li> <li>・医療人としての責任と自覚を持って行動する事。</li> <li>・実習後の到達度評価を受けた者が成績評価対象となる。</li> </ul>
---------	---

## 実習における学習の概要

実習の期間	当年度3年次の前期における9週間(45日間、計405時間)	
実習の場所	各学生に対して指定された臨床実習施設	
実習時間	各実習施設の就業時間に沿うものとする。 ただし、1日の実習時間は臨地体験と指定学習等を含め9時間とする。 (施設外での自主的な学習時間はこれに含めない)	
実習の内容	臨床実習施設において実習指導者の指導監督のもと、 ①検査・評価技術の経験・習練・習得 ②治療手技・技法の経験・習練・習得 ③指定課題(日報・サマリ等)の作成 ④模擬症例担当による臨床の流れの経験 等を行うものとする。	SBO(対応CC) ・G-1-1)～4) (全実習共通) ・G-2-1)～G-2-5) ・G-3-1)～G-3-2) ・G-4-1)～G-4-5)
特記事項	新カリキュラム規定に沿い実習前評価を行う。態度に著しい問題がある者、指示に従わないこと著しい者などの状況が改善しない者など接遇や基本的態度に問題がある者については履修を認めない場合がある。	

成績評価	評価手段	割合(%)	基準および方法
	実習指導者評価	(参考)	評価基準：授業への出席率4/5以上で定期試験の受験資格を得る。 評価方法：実習指導者評価および出席状況や学習態度などを
	学校評価	100	学校評価に加味して総合的に評価する。